

2019年5月初旬北海道の上位蜃気楼

星 弘之（北海道・東北蜃気楼研究会）

1.はじめに

過去に猪苗代湖、十和田湖、田沢湖、洞爺湖、屈斜路湖と内陸の湖で上位蜃気楼の発生を確認、撮影に成功した。洞爺湖と同形状の支笏湖も狙っていたがなかなか出会うことが出来なかった。

今年のGWは10日間と長く天候も良さそうなので、北海道各地の上位蜃気楼に会いに出かけた。天候にも恵まれ支笏湖、小樽、紋別、野付半島の4ヶ所で素晴らしい上位蜃気楼に出会うことが出来たので紹介する。

2.支笏湖の上位蜃気楼(5月4日)

丸駒温泉地区を中心に対象物や駐車場等を調査、最終的に12kmの距離があり建物が多くある支笏湖温泉や湖岸道路を走る車を狙える美笛キャンプ場手前を選んだ。

5月1日、支笏湖畔は一面霧で対岸や湖面が見えなかった。5月2、3日も現地へ共に風が強かった。しかしながら3日の夕方から風が弱くなり期待が持てそうな状況になった。

5月4日、変化が速く小さい変化ながら上位蜃気楼の特徴を持った蜃気楼に出会うことが出来た。



【湖岸の岩や砂が上方に伸び、湖面が波打ったように変化】



【湖岸道路を走る車が上方反転】

3.小樽の上位蜃気楼(5月5日)

5月5日も支笏湖を狙ったが湖面付近が強い揺らぎの為諦め、発生のある小樽に移動した。到着後フィールドスコープで石狩市方向を見ると海岸線が帯状に伸びており出ていると確信、撮影を始めた。球形タンクが上方へ伸び円筒形のタンクに変化、また沖に停泊していた大型船も複雑な変化をしていた。雄冬岬方向の稜線に突起状のものが現れたり消えたりしていた。



【上方に伸び帯状になったタンク群】



【複雑に変化した大型船】

4.紋別の上位蜃気楼(5月6日)

小樽から紋別に移動、ここは頻繁に上位蜃気楼が発生する。また、冬期には変形太陽や幻氷が見られる。道の駅で車中泊、7時ごろ散歩のため海が見える場所へ、南東方向の海上に黒い帯状のものや、所々切れていて島のようなものを視認。空は全天、雲で覆われており上位蜃気楼が出るような雰囲気ではなく確認のためフィールドスコープで見ると漁船の伸び、山の稜線に突起状のものを確認。その後、沙留岬より南側紋別市街や北側興部方向を見ると上位蜃気楼化していた。



【沙留漁港から紋別市街越しに見えた山頂部の蜃気楼】



【沙留漁港北側から興部方向に見えた蜃気楼】

5.野付半島の上位蜃気楼(5月8日)

日の出の時点で出港したホタテ漁船は下位であった。太陽が昇るにつれて若干の変形が見られたが大きくは変化せず。7時30分ごろ標津港北側より野付半島先端方向の海を見ると黒い筋があり海面の一部がキラキラ光っていた。大きく変形したホタテ漁船や上方に伸びた市街地や建物も見ることができた。国後島も上方反転し南端の泊地区辺りで口を開けたように見えていた。



【標津漁港南側から野付半島先端方向に見えた漁船の上位蜃気楼】



【野付半島から標津市街北側漁港や加工場の上位蜃気楼】

6.おわりに

幸運にもGW期間中に異地点4ヶ所で上位蜃気楼に出会うことが出来た。支笏湖では微小だが初めて上位蜃気楼の発生を確認出来た。紋別では朝、全天曇りだったが出ていた。不思議だ。野付半島ではホタテ漁船が複雑な変化をしていて最初は上位蜃気楼とは信じられなかった。この後、野付半島、斜里、屈斜路湖と「同日3異地点で上位蜃気楼」を見ることにチャレンジしたが叶わなかった。何時かは実現させたいと密かに思っている。